

えど友ホームページ http://www.edo-tomo.jp/

8

於



10 12

江戸東京博物館友の会会韓

竹内館長記念講演「関ヶ原の戦いの裏舞台 ー黒田官兵衛と長政一」	友の会セミナー [『江戸名所図会』を読む「東都盛大」と「花のながめ」を考える]7 見学会 [『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町(1)] …8 友の会特別観覧会「軍師 官兵衛」9 江戸博クリップ「ペダルを漕ぐ日々」9 江戸名所図会を歩く⑭ [経王山本光寺から補陀落山海晏寺]10 催事案内/会員優待のお知らせ11 ~ 12
------------------------------------	--

江戸東京博物館友の会 平成 26 年度定期総会 記念講演 (平成 26 年5月 30 日)

| 関ヶ原の戦いの裏舞台 -黒田官兵衛と長政-

竹内 誠 館長 江戸東京博物館



関ヶ原の戦いの裏舞台についてお 話します。慶長3年(1598)豊臣秀 吉が死んだ後、天下はどうなったか。 秀吉を支えてきた五大老のうち、最 も力を持っていたのは徳川家康です が勝手なことをやり始めます。秀吉 は生前、「秀吉の許可なくして縁組 をしてはいけない」と言っていまし た。縁組とは政略結婚のことです。と ころが家康は豊臣家の許可なく、福 島正則や伊達政宗と縁組を結びます。 五大老の一人、前田利家が「けしか らん、家康は秀吉公の教えを守って いない」と詰問します。このうるさ い前田利家も翌慶長4年に死去して しまいます。

小山評定

また、五大老の上杉景勝は、城を修 復するなど軍備を増強しているので、 家康は彼を責め、上洛して挨拶する ようにと何度も促しますが景勝は上 洛しません。そこで会津若松120万 石の大大名の上杉を討伐しようとい うことになります。慶長5年(1600) 6月16日、家康は大坂を出立し、7月 2日に江戸に着きます。色々な準備

のために江戸に20日間滞在した後、 7月21日に江戸を出て7月24日に 秀忠がいる小山に着陣します。徳川 譜代の武将をはじめ、上杉討伐のた めに各地から家康に味方する大名が 集まりました。ほとんどは豊臣恩顧 の武将たちです。ところが、今の滋 賀県彦根市にある佐和山で石田三成 が挙兵をしたとの知らせが入り、上 杉討伐どころではなくなります。翌 25日この対応のための軍議「小山 評定」が開かれました。家康直属の 武将では徳川秀忠、松平忠吉、井伊 直政、本田忠勝などがいますが、多 くは豊臣恩顧の武将である福島正則、 黒田長政、池田輝政、細川忠興、山 内一豊などでした。いつ家康に反旗 を翻すかもわからない武将たちです。 ところが福島正則が真っ先に上杉討 伐どころではない、引き返して石田 を討伐すべきで、家康に従いますと 言います。掛川に城をもつ山内一豊 も私の城を明け渡しますので使って くださいと進言しました。同じよう に小山に参陣していた豊臣恩顧の武 将すべてが徳川方につくことになり

ました。

関ヶ原の戦い

上杉に攻め込まれないように秀忠 が宇都宮に陣立てをして、家康は8 月5日江戸に着きます。西に向かっ て江戸を出立したのは9月1日です から、江戸に長い間、滞在していま す。家康は何を考えていたか。一般的 には、精力的に各大名に「味方につ け」と手紙を書いていたといわれて います。8月だけで87通も出してい ます。具体的には「こちらに味方し てくれたら、あなたの所領の安堵は もちろん、ほかの領地もあげますよ」 というものです。味方づくりに励ん でいたといわれていますが、別の説 もあります。小山評定をやっていた 時は、石田が反乱を起こしただけで、 せいぜい石田と小西行長と安国寺恵 瓊だけだと判断していました。とこ ろが毛利輝元が大坂城に入り、中国、 四国、近畿の諸大名が反徳川として まとまってしまうという心配がでて きました。ここが家康の思案のしど ころ。ひょっとすると秀吉恩顧の武 将たちが皆、寝返ってしまうのでは

ないかと心配になり、家康は情勢を じっと読んでいたのではないかとも いわれています。家康は9月1日に やっと江戸を出立し、小田原、島田、 岡崎と進み清洲に集結します。ここ から急展開します。西軍は、大垣城 を出て陣を構えてしまった。放って おくとやられるので、急戦になりま したが、中山道を進んでいる秀忠の 攻撃部隊(軍勢3万8千)は上田攻め に手間取って合戦に遅れてしまいま した。家康の部隊は家康を守護する

部隊で、9月14日に赤 坂に着きます。そして、 翌日の15日が関ヶ原 の戦いです。関ヶ原は 北国街道と中山道が交 差する交通の要衝です。

西軍は、笹尾山に石 田隊、その南側に島津 隊、小西隊、宇喜多隊、 大谷隊と続き、更に南 の松尾山に小早川隊 (軍勢8千)が布陣して います。ご存じのよう に小早川秀秋は、途中

で東軍に寝返ることになります。東 側の南宮山付近には毛利秀元、吉川 広家、安国寺恵瓊、長東正家ら、そ して栗原山に長宗我部盛親の部隊 が布陣しています。西軍の布陣を見 てみると、西から東へぐるりと東軍 を包囲するように鶴が翼を広げたよ うな陣形となっており、その総数は およそ8万という大軍でした。

東軍は、桃配山の家康麾下の部 隊を中心に豊臣恩顧の武将らが中山 道沿いに布陣します。家康直属の攻 撃部隊は井伊直政、本多忠勝、松平 忠吉ぐらいでした。両軍の布陣を見 ると西軍が東軍を包み込んで包囲攻 撃できる態勢でした。明治に来日し たドイツの将軍メッケルは、関ヶ原 の合戦図を見せられると即座に「西 軍が勝ったでしょう、東軍はめちゃ くちゃに負けたでしょう」と言った そうです。そのように、東軍は鶴の 翼で袋小路のように囲まれたところ にいるので、負けるに決まっている 陣形でした。家康は、あらゆるとこ ろに諜報活動をしていたので西軍の 小早川、吉川など一部は寝返ること

を確信していました。戦いが膠着状 態だったので、家康は、小早川隊の 手前に鉄砲を打ち込み威嚇しました。 これによって、逡巡していた小早 川は寝返りを決断、近くにいた西軍 の諸隊も次々と寝返って東軍となり、 西軍の大谷隊、ついで宇喜多隊は総 崩れになります。また、吉川広家は 動かなかったので、情勢は一変し東 軍の大勝利となりました。戦いには、 いかに諜報活動が重要であるかがわ かります。



▲関ヶ原の陣形

黒田官兵滸・長政親子の生涯

黒田官兵衛は、天文15年(1546) にまだ小さな城であった姫路城で誕 生しました。息子の松寿丸(長政)は、 永禄11年(1568)に姫路城で誕生し、 9歳のときに人質として織田信長に 送られ、羽柴秀吉に預けられて大 切に育てられたようです。天正6年 (1578)に官兵衛は摂津の有岡城に 出向き「信長につけ」と荒木村重の 説得に当たりましたが、反対に幽閉 されてしまいました。翌年、信長に よって有岡城は落城し、官兵衛が救 出されます。官兵衛は1年間も幽閉 されていました。そのことが彼の性 格にいろいろな影響を与えたのでは ないかと思います。

官兵衛は天正15年(1587)に、九 州攻めの功績によって秀吉から豊前 国内で12万石を与えられ、その翌年 に中津城に入城します。そして天正 17年、家督を長政に譲り隠居の身と なります。官兵衛44歳の時です。隠 居の身とはなりましたが、更に大活 躍しています。天正18年、官兵衛は 秀吉の小田原攻めで北条氏を降伏に 導き、秀吉は天下を統一します。

文禄2年(1593)に朝鮮から報告 のために無断で帰国した官兵衛は、 秀吉の怒りに触れ、死を覚悟して遺 書を書きます。その中に、「諸事、心 ままには成らざる物候間、堪忍の分 別第一に候事」と息子に諭していま す。「堪忍の分別第一」ということ は、戦国時代の武将が生き抜くため のキーワードでした。

長政は慶長5年(1600)、小山評定 の時に家康に味方するよう福島正則

> を説得しています。ま た、吉川広家への書状 では「家康討伐の檄文 を発したことは安国寺 恵瓊の才覚で、毛利輝 元は関係ないと家康は 思っている」と書き、家 康は毛利一族の広家を 敵方とは思っていない ことを知らせています。 また小早川秀秋にも家 康方に付くよう働きか けています。父の官兵 衛も小早川秀秋と吉川

広家に書状を送り、家康につくよう 勧めています。なお官兵衛は関ヶ原 の戦いの2日前に、豊後の石垣原の 戦いで大友吉統の軍勢を破り、大友 吉統を生け捕りにしています。

関ヶ原の戦いで、官兵衛および長 政親子の調略によって小早川秀秋は 東軍に寝返り、吉川広家は西軍とし て参戦せず、東軍が勝利を収めまし た。このことがなければ家康は負け ていたことでしょう。この大活躍に よって長政に筑前52万石が与えら れています。

官兵衛は、慶長9年(1604)に59 歳で死去しました。また、長政は元 和9年(1623)に56歳で死去しまし

官兵衛の辞世の句は、

おもひをく 言の葉なくて つねに行 道はまよはし

なるにまかせて

です。大満足の人生であったことが 想像されます。なお、官兵衛は、家 督を息子長政に譲った後、如水(ある いは円清)と名乗っていました。

如水(花押)

【記録】文・写真: 広報部会・前田太門

14) 回) 定)期) 総会 第) 開 催)

会員増で、歴代最多の参加者 交流会も大盛況

5月30日(金)、江戸東京博物館友 の会の第14回定期総会が開催され ました。とても5月とは思えない真 夏のような暑さにもかかわらず、今 年は総会の参加者が292人と過去 最多となりました。

総会は畠中会長の挨拶に始まり、 江戸博から5人の方が来賓として紹 介され、館を代表して小林副館長か らご挨拶をいただきました。この中 で小林さんは昨年度の江戸博の活動 と平成26年度の常設展リニューア ルを含めた展開についてもお話をさ れました。

議長団の選出後、議事進行に入り ました。上程された議案は第1号議 案が「平成25年度事業報告並びに 収支決算報告」です。畠中会長から の概要説明に続いて順に、事業部会、 広報部会、総務部会の各部会長から 報告があり、次いで町方書上、会計、 続いて監事の松原さんから監査報告 がありました。第1号議案は質問も なく、拍手をもって承認されました。

第2号議案は「平成26年度事業計 画案ならびに事業予算案」について です。第1号議案同様、会長からの 概要説明、各部会長からの説明、町 方書上、会計からの説明で、これも 拍手をもって承認されました。

第3号議案の「役員の補充選出に ついて」の説明の後、新役員2名が 紹介され、3件の議案は特に質問も なくすべて承認されました。

この後、副議長からの「友の会全般 に対してご意見があれば」というな かで2点質問がありました。一つは、 会員カードの番号の見方についてで す。事務局長から最初の2桁は入会 した西暦年の下2桁、次の2桁は月、 次の3桁はその月の入会順という説 明がありました。例えば「0711090」 という番号の場合、2007年11月の 90番目に入会したということにな ります。

二つ目の質問は、「友の会の催事企 画は江戸が主体で、東京視点の企画 が少ない」との指摘でした。これに ついては事業部会長からどうしても 江戸という方が参加者が多くなるが、 今後は見学会などでは東京視点での 説明も入れるよう心がけるという説 明がありました。

これで総会は無事終了し、午後3時 からは竹内館長の記念講演会「関ケ 原の戦いの裏舞台―黒田官兵衛と長 政一」が開催されました。ご自分の 失敗談などもいれて満員の聴衆を笑 わせながら、NHK 大河ドラマの主 人公である官兵衛と長政が関ヶ原の



戦いで果たした役割をわかりやすく お話しいただきました。時間はあっ という間に過ぎ、満員の聴衆の万雷 の拍手の内に講演は終了しました。

4時45分からは7階の桜茶寮で恒 例の会員交流会が行われました。こ ちらもこれまで最多の176人の参加 があり、担当者が料理が足りるか心 配するほどでした。江戸博からは竹 内館長はじめ、来賓として総会に来 ていただいた小林副館長、杉谷参事、 各務管理課長、江里口都市歴史研究 室室長兼事業企画課長、飯塚広報調 整担当課長事業推進係長事務取扱が 参加され、友の会会員も親しくお話 させていただきました。会員同士の 交流も活発に行われ、6時過ぎに〆 の小皿に盛られたお寿司をいただい て6時半頃流れ解散となりました。

なお、総会では司会に柏木静さん、 議長団は、議長に事業部会・野川洋 一さん、副議長に事業部会・宮 俊 さん、書記に広報部会・光田憲雄さ ん、同じく総務部会・高田利正さん の皆様に担っていただきました。

> 【取材】文: 広報部会 中村貞子 写真:同 福島信一

新役員紹介

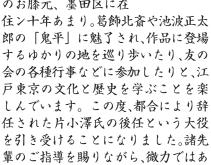
(プロフィール)

第14回定期総会で 承認された新役員を ご紹介します。

イラスト:藤井文乃さん (総務部会)

分部 祐治 (総務部会)

富士山の麓、〈富士吉 田〉に生まれ育ち、現 在は東京スカイツリー のお膝元、墨田区に在



りますが全力を尽くします。

幸二 (事業部会) 谷口

江戸博に関わる きっかけは何だった かを考えてみると、長 年の通勤途中の暇つ



ぶしに『鬼平犯科帳』を繰り返し読み 直している中で、切絵図や江戸名所図 会などの存在を知り、それらをひも解 くうちに「江戸」 好きになってしまっ たことでしょうか。地方出身の私は昭 和40年代後半以降の東京しか知ら ず、かつての江戸の姿を勝手に想像し つつ、事業部会を通じて皆さんと江 戸・東京の町を元気に歩き回りたい と思います。



会員からの投稿

芝浜余間

松原 良

代表的な人情噺の一つ「芝浜」は 大晦日の夫婦のやり取りにヤマ場が あるので、どうしても12月の噺とい うことになっています。ある落語狂 氏のデータではこの10年間に63回 「芝浜」を聞いていて、そのうちの 30回は12月に聞いたそうです(『東 京かわら版』 483号29頁、平成26 年1月)。

それで、私が世話人のえど友サー クル「「落語で江戸散歩」をなぞる 会]でもご多聞にもれず昨年12月に 「芝浜」をテーマとして歩きました。

「芝浜」の舞台といわれる雑魚場跡 へ行ったり、かつての芝浜跡を歩い てみたり、とここまでは当たり前の 散歩ですが、今回は架道橋を見るこ とにも意を用いました。

それはこの会が単に落語ゆかりの 地を歩くだけでなく、「落語で江戸 散歩」(かつての『えど友』の連載企 画)をなぞる会だからです。「芝浜」 はその⑥(平成21年1-2月号)なの ですが、この中で当時の筆者稲垣武 志さんは架道橋について、肝心の落 語「芝浜」のシットリとした情趣を 忘れそうになるほどの感動、興味を 示されています。

そこで今回は3カ所の架道橋を コースに入れました。架道橋という のは「道路や鉄道を立体交差で越え るために架けられた橋」と辞書にあ るのでここでの興味の対象は正確に は架道橋の下の道路ということにな ります。俗にいうガード下の道路と いうことですが、このあたりは明治 時代に海上の橋の上を汽車が走って いた地形そのままに線路の下にあっ

た水路を道路にしているので、深さ (高さ制限?)もまちまちです。今な ら地下道を整備するくらいは造作な いと思うのですが、昔のままという のも不思議です。

今回歩いた「雑魚場架道橋」、「湊 町架道橋」とも不気味な雰囲気です が、極め付きは「高輪橋架道橋」で す。



▲高輪橋架道橋

ここは『えど友』でもユニークさの トップにあげられていますが、高さ 制限がわずか1.5m、一方通行なが ら車も走っているのです。特に下見 のときには車が連続してビュンビュ ン走っていて驚きました。裸電球で はないのですが、それに似た雰囲気 の黄色の照明で、かなり長い距離で す。身をかがめて歩くことになり、 まあ超異様空間といったところです。 上を最新鋭の東海道新幹線をはじめ JR 各線が走っているかと思うと、ま るで最新設備の高級マンションの中 に江戸時代の長屋があったような錯 覚にとらわれました。高輪大木戸跡 のすぐそばにこんなところがあるの です。この近くに山手線の新駅がで きるという話もあり、皆さんも今の うちにこの遺構?を見ておかれたら どうでしょうか。

一両国周辺散歩 小さな博物館ー

「面图花火資料館」

清 水 昌 紘

江戸花火の始めは川施餓鬼から

江戸時代から今日まで夏の風物詩 といえば、大きな音とともに夜空に 大小の花を開き、そして静かに消え てゆく花火です。『江戸名所図会』で 長谷川雪旦が挿絵に花火を描き、其 角の句「壱両が花火間もなき光かな」 が添えられているほど有名だったの が大川(両国)の花火でした。8代将



▲花火資料館内部

軍吉宗が享保18年(1733)に、前年 大流行したコレラで亡くなった人々 の供養と疫病除けのため始めたのが 両国川開き(花火)です。でも正直、私 には花火やその歴史に関する知識は 皆無です。そんな私にもいろいろ教 えてくれるのが「両国花火資料館」 です。

両国にある花火資料館

JR 総武線両国駅から南方へ歩い て2分、回向院の右隣にある住友不 動産両国ビルの1階に花火資料館は あります。右脇の通路を進むと半円 形に飛び出した一角があり、その裏 側半分が資料館です。入ると12畳程 の空間で、ぐるっと一回転すれば全 て見通せるほど「小さな博物館」で した。…が、大きな2尺玉から3号玉 (3寸玉)まで実物大の花火玉や打ち 上げ筒が展示され、花火師の半纏や、 川開きの歴史年表・錦絵、花火大会 のポスターも所狭し!と壁に貼って あります。展示ケースにも絵画・文 書・新聞記事がこれでもかといった 具合で、とにかく、鍵屋・玉屋の歴 史はもちろん、あらゆる花火関係の 物があるというわけです。

墨田区観光協会が運営

両国花火資料館は平成3年3月に 開館し20年以上経ちます。ここに開 館できたのは「隅田川花火大会」のス ポンサーの1社である住友不動産の ご好意だそうです。花火大会は戦争 や交通事情により度々中断し、昭和 36年(1961)に終了しましたが、昭 和53年(1978)に復活し今日に至っ ています。見て回るだけでも楽しめ ますが、墨田区の委託でお二人の管 理員さんが1週間置きに交替で詰め、 じっくり丁寧に説明をして下さいま す。鈴木克之さんは花火鑑定士で、中 嶋鴻明さんは今年4月に着任された 方です。「花火ができるまで」という

ビデオも見られます。思いの外、来 館者は多く、私が訪ねた2回とも雑 誌社等が取材に来ていました。

今年で約 280 年

「両国川開き」として始まって今 年は281年になります。今年の花火 大会は7月26日(土)。資料館の開館 は、5、6、9月、10月は木~日、7、 8月は毎日開館、11~4月は木~土。 いずれも正午から午後4時までです。 江戸博へ来たついでに寄ってみては いかがでしょう。入場も無料で、と ても楽しいですよ。

両国花火資料館

〒130-0026

東京都墨田区両国2丁目10番8号

クルだるり

◆落語と講談を楽しむ会

4月3日(木)月番松原良/松原明子 さんで、桜が満開の上野公園を散歩 し、上野広小路亭に向かった。月番 の発案で落語の「長屋の花見」を再 現し、寄席の席で厚焼き玉子≒東京 たくあん、蒲鉾≒糖しぼり大根、お 酒≒お茶けを楽しんだ。参加者18人。 5月27日(火)月番伊東敏男さんの 案内で隅田川右岸(厩橋~両国橋)を 散策、月番の落語と周辺芸能の薀蓄 を傾けた案内書と解説に一行感心し きりだった。参加者16人。

◆藩史研究会

4月11日(金)大渡眞司さんが「岡崎 藩の歴史」の発表を行った。室町時 代に台頭した松平氏は初代親氏(徳 阿弥)に始まり、7代清康の時、岡崎 に本拠を移し、三河一国を支配した。 江戸時代、藩主は本多、水野、松平 (松井)、本多の四家と推移した。参 加者16人。

5月9日(金)国定美津子さんによる 「下野国真岡藩」の発表で、栃木県の 地図で真岡の場所を確認することか ら始まり、2時間半に及ぶ密度の濃 い発表だった。参加者14人。

◆古文書で「八丈実記」を読む会

4月10日(木)参加者9人。4月25日 (金)参加者9人。5月8日(木)参加者 9人。5月23日(金)参加者9人。以 上4回で八丈島の島役人長戸路家に 伝わる御用留(享保年間)のP20~

38を解読した。

◆江戸東京を巡る会

4月14日(月)柳沢吉保の名園であ る六義園で春を楽しみ、巣鴨の地蔵 通りでは江戸六地蔵の真性寺、とげ ぬき地蔵の高岩寺に詣でた。参加者

◆江戸名所図会輪読会

4月17日(木)生野美知代さんの担 当で布田里~青渭堤(現在の調布市 一帯)を発表。調布市一帯は布田の里 と呼ばれ、布田五宿は甲州街道3番 目の宿場町だった。参加者21人。 5月15日(木)石川文夫さんの担当 で浮岳山深大寺~深大寺城跡を発表。 今回は、調布一帯の〆として深大寺 を詳しく記述したパートを読んだ。 参加者19人。

◆「落語で江戸散歩」をなぞる会

4月24日(木)『えど友』第42号10 頁の「落語で江戸散歩①野ざらし」 をなぞって歩いた。「田原町」駅に 集合し、東本願寺、浅草六区、奥山、 花川戸を経て言問橋を渡り対岸の隅 田公園へ。三囲神社、向島検番、長 命寺を経て、桜橋を渡って弁天堂(時 の鐘)で解散した。参加者48人。

4月27日(日)も同じコースで参加 者34人。

5月22日(木)『えど友』第52号10 頁の「落語で江戸散歩①佃祭」をな ぞって歩いた。「新富町」駅に集合し、 新富座跡地、佃島渡船跡などを経て 佃大橋を渡り、佃波除稲荷神社、佃、 月島の町を巡る。勝鬨橋経由、築地 本願寺で解散。参加者38人。

5月25日(日)も同じコースで参加 者32人。

◆日本の大道芸伝承会

4月17日(木)畠中会長作成の DVD を見ながら、江東区深川江戸資料館 主催イベント「江戸の春~物売りと 大道芸」の反省会を行った。参加者 3人。

5月8日(木)調布駅前で行われるイ ベント「アースデイ」へ応援参加の ため、「石立の術」「野菜売り」「苗売 り」「辻占売り」「南京玉すだれ」等 を練習した。参加者3人。

5月10日(土)調布駅前で行われた イベント「アースデイ」へ応援参加 し、「石立の術」など新演目を披露し

た。参加者3人。

5月15日(木)発声練習(ういろう売 り、がまの油売り)の後、基礎練習 をした。新演目「心太売り」「仙人」 等に挑んだ。参加者3人。

◆江戸を語る会

4月26日(土)浮世絵の語源から始 まり、肉筆浮世絵と浮世絵が歩んだ 過程及び江戸時代の出版状況等話が 弾み、浮世絵を通して江戸の魅力が 満喫できた。参加者12人。

* *

●各サークルとも引き続きメンバー を募集しております。参加希望の 方ははがきに①サークル名②会員 番号(必須)③氏名を記入の上、友 の会事務局へお申し込みください。 ただし輪読系の2サークルについ ては定員に欠員が出たときに先着 順で参加いただけます。

友の会めも(開催日と人数) 平成 26 年 4 月~平成 26 年 5 月

- ◆平成26年度江戸東京博物館&友 の会連絡協議会4月22日(火)博物 館・竹内館長以下6人、友の会・畠 中会長以下14人。◆役員会4月8日 (火)15人。5月13日(火)15人。
- ◆事業部会4月1日(火)27人。5月 6日(火)26人。◆総務部会4月22日 (火)20人。5月27日(火)19人。
- ◆広報部会4月15日(火)11人。5月 20日(火)12人。◆古文書講座 入 門編5月17日(土)午前84人・午後 84人。初級編5月21日(水)午前69 人・午後58人。中級編5月14日 (水)午前41人・午後34人。◆町方 書上翻刻プロジェクト4月3日(木) A7人・B9人。4月17日(木)A8 人·B10人。5月1日(木)A休会。· B9人。5月15日(木)A8人・B休会。



▲西蓮寺のヤマユリ (茨城県行方市) イラスト:福島信一さん

第140回 江戸東京博物館友の会セミナー(平成26年4月13日)

「百万都市・江戸市中の拡大 一南西方面を中心に-

講師 竹村 到さん [港区立港郷土資料館学芸員(文化財保護調査員)]



はじめに

江戸の範囲は非常に難しい問題で す。荻生徂徠が8代将軍吉宗に提出 した『政談』に「何方までが江戸の内 にて、これより田舎なりという境こ れなく」とあるように、幕府の役人も 掌握できていなかったのです。この 問題が一応の解決を見るのは文政年 間(1818~1830)で、地図上に江戸 の範囲を定めた「柴引・墨引図」で す。しかし、これも「一応」であっ て、定説とまではいえません。

内郭門と外郭門

江戸は元来、江戸城の城下町で す。まず、江戸城の範囲を見ておき ましょう。江戸城の完成は寛永年間 (1624~1644)といわれます。狭義 の江戸城は内郭、広義だと外郭とな りますが、時代と共に変化しました。 内郭は、いわゆる城内のことです。当 初の外郭は、日比谷御門、数寄屋橋 御門、鍛冶橋御門、呉服橋御門、常 盤橋御門、神田橋御門など、現在の 内堀に囲まれた範囲です。これがど こまで拡大するかといいますと、外 堀に囲まれた範囲(浅草御門、筋違御 門の順に幸橋御門まで)となります。 外郭門のうち一つだけ遅れて作られ たのが芝口御門(宝永7年・1710) です。この内側にある町は、江戸市 中といえるでしょう。

江戸図の範囲

「江戸図」に描かれる範囲は、「江 戸」と考えられますが、これも時代 によって範囲が異なります。いくつ か紹介すると、次のようなものがあ げられます。

- ①慶長江戸図(慶長13年・1608) -当初の外郭が範囲。
- ②武州豊嶋郡江戸庄図(寛永9年・ 1632) 一通称寛永江戸図。慶長図よ り東と南へ拡大。
- ③新添江戸之図(明暦3年・1657) 一通称明暦江戸図。寛永図より更に 南へ拡大。明暦の大火(1657)以前の 様子を描いた絵図。大火を契機に再

開発がなされるため、それ以前の江 戸を知る資料として貴重。なお、大火 後の再開発の状況を知る地図は、三 井文庫所蔵の「明暦江戸大絵図」が ある。

④新判江戸大絵図(寛文10~13年· 1670~1673) 一寛文五枚図と俗称 されるように計5枚(江戸大絵図1 枚+江戸の外絵図4枚)から成り立 つ。この後、この範囲を1枚の絵図 にしたものが、長く江戸図として使 用された。

⑤御府内沿革図書(文化4年~・ 1807~) ―「御府内」は「墨引」より やや内側、「御府内場末」は「朱引 き」付近までを示す。

大木戸って何だ?

大木戸は、江戸への入り口といわ れています。現在確認出来るのは、高 輪大木戸と四谷大木戸だけです。高 輪大木戸は、宝永7年(1710)に石 垣が築かれ、木戸が設けられました。 四谷大木戸は、元和2年(1616)に設 置され、寛政4年(1792)に石垣が築 かれました。辞典類には、四谷大木 戸が寛政4年に廃止されたとありま す。しかし、不思議なことに江戸図 に四谷大木戸が描かれるようになる のは「寛政4年」以降です。高輪大 木戸は、正徳2年(1712)から描かれ ています。江戸図に大木戸が記され るようになるきっかけは、石垣の造 営といえそうです。

移動する高札場

高札とは、守るべき基本法令が記 された掲示板です。江戸の中心地と 出入り口に設置された6カ所の高札 場「日本橋南詰西、常盤橋御門外、浅 草橋御門内、筋違橋御門内、芝車町 (札の辻)、半蔵御門外]は俗に「大 高札場」と呼ばれていました。元禄 7年(1694)の町触からは、この「大 高札場」と並んで3カ所の高札場が 記されています。これは「浦高札場」 と推察され、その規模も「大高札場」 と同様のものであったと考えられま

す。その他の高札場は、『高札場書 留』という史料から51カ所あったこ とがわかります。

芝口はどこ?

芝口とは、「芝」の入り口のことで す。でも、3カ所ほど芝口とされる場 所があり、これが混乱の元になって おり、辞典類の記述もまちまちです。 そのため、当初は京都から見て、後 には江戸から見て、それぞれ芝の入 り口と説明されることが多いのです。 この解釈は、芝口御門の建設年代(元 和2年・1616と宝永7年・1710) 説の整合性を取るためにできたもの と推察されます。元和2年説の根拠 は、『町方書上』の記述です。宝永7 年説の根拠は、新井白石の『折りた く柴の記』です。正確な建設年代は 不明とせざるを得ませんが、多方面 から勘案して元和2年説には無理が あるように感じられます。

地名の由来の多くは、『町方書上』 に拠っていますが、これも多面的な 考察が必要で、裏付け作業が欠かせ ないのです。

おわりに

江戸の範囲は、指標(郭門、江戸 図、高札場、朱引線など)が変われ ばその範囲も変化します。さまざま にいわれていることの整合性を取っ て、それを総合的に理解し、その妥 当性を検討する必要があるのではな いでしょうか。その際には、イメー ジー例えば「四宿の内側が江戸では なかったか?」一なども重要で、当 時の人びとが「江戸」の範囲をどの ように観念していたのか、という点 も無視できません。

以上のような問題点を頭の片隅に 置いておくと、『町方書上』を読む時 や街めぐりをする際に新しい発見が あるのではないでしょうか。

参加者158人。

【記録】文:広報部会・光田憲雄 写真:同・竹中祐見子

今回の演題に「東都盛大」と「花 のながめ」という言葉を入れた理由 は、これらによってなぜ『江戸名所 図会』が書かれ、どのように受け入 れられたかが分かる象徴的な言葉だ からです。『江戸名所図会』は天保5 年(1834)と7年(1836)に刊行され た名所図会で、全7巻20冊からな ります。書名に「江戸」とあります が、実際は江戸とその郊外を含んで います。名所を紹介する分かりやす い文章と多数の鳥瞰図を中心とする 挿絵により、江戸の様子をよく表し ています。編著者は斎藤長 秋・県 麿・月岑の親子三代です。斎藤家は 代々神田雉子町の名主を務める家で、 代々市左衛門を名乗りました。また 絵師は長谷川雪旦で、この『江戸名 所図会』が代表作の一つです。

『江戸名所図会』の出板

長秋の序文によれば、様々な名所 図会の刊行に影響を受け、人の勧め もあり編纂を決意しています。当時 書物を出板する際、板元(本屋)から 書物問屋仲間へ書物を提出し、町年 寄、町奉行に審査され、許可が下り なければ出板ができませんでした。 『江戸名所図会』の場合、寛政5年 (1793)には出板許可を得ていまし たが、天保7年の刊行まで40年以上 かかりました。これは長秋が編纂を 開始し、県麿が範囲を郊外に拡大し、 月岑が完成させるという三代にわた る編纂のためです。しかし、その間 の江戸の町の変化について一つ一つ 改めてはいないので、実際に刊行さ れた時期の江戸の様子とは内容が異 なっていると、月岑が『江戸名所図 会』の附言で述べています。

「東都盛大」を考える

「東都盛大」とは編著者三代の意 気込みを表した言葉で、『江戸名所 図会』の凡例にあります。凡例には、 主な編纂方針が次のように記されて います。

- (1)江戸城を起点とする「の」の字 型の構成で、全7巻を北斗七星にな ぞらえている。
- (2)名所を選ぶ基準は、由緒あるも のを載せるとしている。
- (3)文章に書かれた方角は、前の場 所を基準とし、その東西南北や左右

(平成26年5月10)会セミナー

齊藤智美さん

(明治大学文学部兼任講師

第 1<u>4</u>1

江戸東京博物館友の



になっている。

(4)引用書は、全文でなく要旨を載 せ、読者が飽きないようにする。

(5)挿絵に描かれた景色を脚色する のは、「東都盛大の繁栄」(江戸の繁 栄)を江戸以外の人に知らせ、子供な どが見るのに飽きないためである。

この「東都盛大の繁栄」を伝える ことが、親子三代の一番の思い入れ のあるところではないかと考えられ ます。これは、『江戸名所図会』冒頭 の「武蔵」や「江戸」の項目におい て、文章や挿絵で江戸の平和や繁栄 が描かれることにより裏付けられて いると考えられます。

「花のながめ」を考える

『江戸名所図会』がどう受け止め られたかの一例として、曲亭馬琴が 残した記録をご紹介します。『馬琴 日記』によれば、馬琴は天保5年2

月22日から24日にかけて『江戸名 所図会』を読んでいます。読んだ範 囲は1冊目から4冊目の最初までで、 全7巻のうち巻之二の最初の部分ま でしか読んでいないと考えられます (巻之一・二はそれぞれ3冊)。読む きっかけとなった話は、殿村篠斎 (伊勢松阪の国学者)宛の書簡に書か れています。馬琴は、最初買おうと したけれども値段が高くて止め、後 に篠斎の依頼で売買の仲介をした際 に、仲介手数料として読んでも良い ことになったとわかります。ところ が、本の届いた2月7日に江戸が火 事になったため、ごたごたしていて すぐには読めず、ようやく22日から 24日まで読み、26日には伊勢の篠 斎に送っています。

『異聞雑稿』には、馬琴の批評が次 のように書かれています。

- ・「俗書」であるが、昔の人が書き漏 らしたことを補っていて、思いもよ らないことも多い。
- ・地名の由来など、疑問を持つよう なこともある。
- ・編著者の功績は四割で、六割の優 れた部分は挿絵である。
- ・江戸に来られない人には、これ以 上に江戸の様子が分かるものはない。
- ・1巻が何冊にも分かれているのは、 最初の見積りより頁数が多くなった ためではないか。
- ・紙の折り目に書名や巻数を書かず、 本の頁を綴じ目に書いたのは落丁を 確認するのに不便である。

また、篠斎宛の書簡には『江戸名所 図会』について、「何事も遠きが花の ながめに御座候」とあります。これ は江戸以外に住む人から見れば、「遠 い花のながめ」のように人で賑わっ ている江戸の様子が分かるというこ とでしょう。このように馬琴の評価 は必ずしも良いものとは言えません が、評価すべき部分は認められてい ると考えられます。

レポーターからひとこと

名前は有名でも全部読んだことの ある人はあまりいない『江戸名所図 会』ですが、全体像が分かりやすく話 され、「入門編」として最適の内容だ と思いました。 参加者179人。

【記録】文・写真:広報部会・菊池真一

江戸東京博物館友の会 見学会 (平成26年5月11日)

[『江戸名所図会』の挿絵で 歩く江戸の町(1)]



新シリーズ1回目の見学会は、気 温25度を上回る夏日の中、地下鉄 淡路町駅に集合し始まりました。神 田・日本橋周辺の5.3kmを3時間 余で巡りました。

斎藤家居宅跡から日本橋

『江戸名所図会』は、斎藤長秋、県 麿、月岑の父子三代によって、実地 検分し、名所旧跡、寺社仏閣の沿革 等を書き上げ、長谷川雪旦の詩情豊 かな挿絵とあわせ、天保5年(1834)、 天保7年(1836)に刊行されたもの で、江戸後期の様子が描かれていま す。最初の見学場所は、この斎藤家 の居宅跡(神田司町辺)、新シリーズ 1回目はぜひここからとの説明があ りました。



▲月岑顕彰碑(神田司町2丁目)

そこから南へ向かい、旧鎌倉河岸 へ。挿絵「鎌倉町 豊島屋酒店 白 酒を商ふ図」に描かれた場所。豊島 屋は、伏見の酒(下り酒)を商い、飲 み屋も営んでいました。初代が夢に 見た白酒を製造販売し、江戸中の評 判となりました。毎年2月末の1日 だけ、雛祭の白酒を売ったところ、江 戸市中から大勢の客が殺到して大変 な騒ぎになりました。挿絵はその様 子を描いたものです。左手に入口が あり、予め引換券を買い、白酒を買 い求めて右手の出口から出るのです が、けが人が出ないように入口の上 に櫓を組み、鳶と医者が見張るほど の賑わいだったようです(現、豊島屋 ホームページより)。次に向かったの は、日銀前、挿絵「八見橋」の描か

れた場所です。日本橋川と道三堀、外 堀の合流辺りから常盤橋、銭瓶橋、道 三橋、呉服橋、日本橋、江戸橋、鍛 冶橋、一石橋の八橋を俯瞰した挿絵 ですが、日本橋、江戸橋はそれぞれ 別の挿絵に描かれています。今では、 道三堀、外堀は埋め立てられてオ フィス街、商業施設に変貌し、日本 橋川は高速道路に光を奪われ、水運 から陸運へと変貌してしまいました。

ここから、川沿いを東へ進むと日 本橋です。挿絵「日本橋」は、北詰 からの風景が描かれています。橋上 を往来する人々の細かい描写に当時 の風俗を見る事ができます。また、 川面には魚市へ急ぐ八丁櫓の船、大 量の荷を運ぶ船、屋形船の往来が描 かれています。今では橋の姿も石造 りで橋上を高速道路に覆われ川面の 賑わいもなくなってしまいましたが、 国の道路元標として石橋の雄姿を見 せています。

日本橋北岸から江戸橋にかけて、 魚市(通称、魚河岸)がありました。 その繁盛ぶりは、挿絵「日本橋 魚市」 に描かれています。芝居、吉原と並 び、一日千両の商いになったといわ れます。



▲挿絵:日本橋 魚市

日本橋室町から日本橋人形町

ここから、室町通りを北へ海苔店、 鰹節店と江戸以来の老舗を右に見て 200 m程の所が三越本店前で、挿絵 「駿河町 三井呉服店」が描かれてい ます。今の町並と比べて、眺望の良 い江戸の町並みが見てとれます。

駿河町の名は、正面に駿河の国の

富士山が望めたことに由来し、三井 呉服店は、駿河町のほとんどを占め ていたようです。店前を往来する人 たちの中に、振売りの他お供連れの 武家も多く見られます。



このあと、挿絵「本町 薬種店」 と挿絵「十軒店 雛市」の描かれた 地を巡り、大伝馬町へ向かいました。 ここは、江戸時代伝馬町の牢屋敷 で有名ですが、木綿問屋も多くあり、 挿絵「大伝馬町 木綿店」として描 かれています。店前には木綿俵満載

の大八車や、買い物帰りか、使用人

を従えた婦人の姿も描かれています。

挿絵「堀留」と、挿絵「伊勢町河 岸通 米河岸 塩河岸」は江戸時代 より、東堀留川、西堀留川、日本橋 川の水運を利用して諸国物産を扱う 船荷問屋が多く集まり、これらを格 納する蔵が集中していた様子がよく 分かります。いま堀は埋め立てられ ましたが、江戸の町に張り巡らされ た運河を知るには、重要な町です。 堀留公園から人形町へ、挿絵「堺町 葺屋町 戯場」には歌舞伎芝居の市 村座、中村座の賑わいが描かれてい ます。二座の他にも人形芝居、操芝 居、芝居茶屋が軒をなしていました。

ここからは、江戸橋を渡り、日本 橋川を西に向かい日本橋南詰で解散 となりました。 参加者177人。

> 【取材】】文:広報部会・田端道宏 写真:同・佐藤美代子

(えど友ホームページに地図と写真 レポートが掲載されています)

江戸東京博物館友の会特別観覧会 (平成26年6月6日)

2014年 NHK 大河ドラマ特別展 「軍師 官兵衛」



7月13日まで開催されている「軍 師 官兵衛」の友の会特別観覧会が 6月6日(金)17時から開催されまし

黒田官兵衛は戦国時代末期、織田 信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑 に重用され、乱世を見事に生き抜く とともに、福岡52万石の礎を築いた 稀代の天才軍師とうたわれています。

観覧会に先立ち、1階ホールにて 担当の齋藤慎一学芸員による「見ど ころ解説」が行われました。スクリー ンで主に北条家・小田原攻め関連の 資料や、拡大された地図を使っての 説明を受けた後、参加者は「官兵衛」 ゆかりの品や同時代の歴史資料など 紹介されている会場へ移動し、展示 品を見学しました。

プロローグ〜戦場のよそおい〜

- 黒田如水像
- · 白檀塗合子形兜(赤合子) (6月8 日以降はレプリカ展示)

第1章 播磨に生まれ

官兵衛は天文15年(1546)姫路で 生まれました。

- ·『黒田家譜』16冊
- ・織田信長黒印状 天正5年(1577) 5月16日—英賀合戦に勝利した小 寺政職、官兵衛の軍功を賞した信長 が荒木村重に宛てた書状。

第2章 有岡城幽閉

- ・黒田氏家臣連署起請文
- · 竹中重治(半兵衛)書状

第3章 秀吉を天下人に

- ・本能寺出土遺物 焼け瓦
- ・『老人雑話』(江戸時代)―官兵衛ほ か歴史上の著名人の織りなす逸話集。
- ・豊臣秀吉朱印状案―北条氏への宣 戦布告状。
- ·小田原陣之時街道筋諸城守衛図— 秀吉が小田原に向かった東海道の経 路を示す地図(桃山時代)。
- ・小田原城仕寄陣取図―豊臣勢の布 陣、官兵衛の陣。

北条氏から官兵衛に贈られた品も展 示されています。

・太刀 名物「日光一文字」鎌倉時 代(国宝)

- ・北条白貝一法螺貝は軍陣における 合図としても用いられた。
- ・琵琶 銘「青山」一唐から渡来し た名器を平清盛の甥、経正が仁和寺 の守覚法親王から譲られてその写し を作り、北条家に伝えられたという 琵琶(鎌倉時代)。

黒田家に伝来した北条家からの贈 答品を前にすると、小田原攻めでの 官兵衛の難しい役割が思われ、その ことに感謝した北条家の気持ちが浮 かび上がってきます。

第4章 如水となりて

・黒田如水自筆覚書一官兵衛直筆の 遺言状。

第5章 文雅のたしなみ

- · 千利休自筆書状
- ・『御茶堂之記』
- ・『六家抄』一細川幽斎より贈られた 新古今集の有名歌人6人の家集秀歌 抜き書き集。

エピローグ~思いおく言の葉なし~

•黒田如水辞世和歌短冊

おもひをく 言の葉なくて つゐに行 道はまよはし なるにまかせて

慶長9年(1604)伏見にて死去。

展示会場内イス席に図録が数多く 置かれていました。こちらを見なが ら観覧されると楽しいのではないで しょうか。 参加者115人。

【記録】文・写真: 広報部会・竹中祐見子

ペダルを漕ぐ日々

この春、消費税増税前の駆け込み で自転車を入手しました。巷で頻繁 に行き交っている、あの「子供をリ アに乗せる」タイプです。便利そう だなぁ、だけど少々危なっかしい なぁと、何となく回避しつつ4歳児 の手を引っ張りながらの外出にも もっぱら徒歩プラス公共交通機関を 使ってやり過ごしてきました。何よ り保育園の送迎には不要だったこと が、大きな理由でした。しかし季節 は移り、我が家の園事情にも変化が 訪れました。あれこれと悩むほどの デザイン幅も時間もなく、自転車は 至極すんなりとやってきました。

このタイプの自転車転倒事故は、 とかく子供の乗せ降ろし時に起こり

展示事業係学芸員

やすいとか。手元で操作できる前輪 固定や、幅太のがっちりとした小ぶ りのタイヤ、立てたと同時にロック がかかる幅広の両足スタンドなど、 しっかりと考えられた構造に何より 安心感が持てました。かつて折り畳 み自転車を愛用していた身には、重 量のある車体に対する漕ぎ心地云々 は求めていませんでしたが、前後の 車輪間隔にゆとりを持たせるなど、 想像以上になかなか良くできた乗り 物でした。

ということで、天気の良い週末に は後部座席にはキラキラ光るヘル メットに満足気の娘を乗せてサイク リングを楽しんでいます。ちょっと 不便だった公園までも気軽に行ける

丸 山 はるか (まるやま はるか)

ようになったのは大きな収穫でした。 お気に入りは善福寺川緑地。中でも 児童交通公園は、都会の子供たちが 伸び伸びと自転車練習にいそしむ姿 を垣間見られて、新鮮な驚きがあり ました。公園自体は交通戦争が激し くなった昭和40年代の産物のよう ですが、まだまだ人気スポットとし て現役でした。

2020年オリンピックを控えた東 京都が自転車レーン整備の計画を進 めているなど、ますます自転車に優 しい街に変化していくことを願いつ つ、重いペダルを漕ぐ日々はしばら く続きそうです。

◆このコラムは江戸東京博物館のいろいろ な職務の方々に執筆をお願いしています。

[経王山本光寺から補陀落山海晏寺]



神田雉子町名主の齋藤家三代に よって『江戸名所図会』が世に出る までには、膨大な量の調査が行われ ました。現存している第10代の縣 麻呂によるその調査記録『郊遊漫録』 には、調査先で道に迷ったり、訪ね た先が不在で目的を果たせず、何度 も出かけるはめになるなどのさまざ まな苦労が書かれています。

今回は目黒川を渡り、ほ ぼ旧東海道に沿って南下し ます。桜の咲き始めた3月 末、新緑のまぶしくなった 連休明けと、良い季節を2 度歩きました。

経王山本光寺から海蔵寺

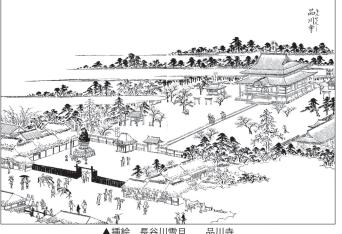
京浜急行新馬場駅から出 発。第一京浜を横断し、目 黒川に架かる東海橋を渡る と本光寺はすぐ右手に見え てきます。「南番場に有り。 日蓮の主流にして京師妙満

寺派の触頭江戸三箇寺の一室なり」 とあるこのお寺には、寛永19年(1642) に将軍家光がお成りの時、供奉して きた増上寺の意伝と、当時の住職日 啓が念仏無間についての問答をした との言い伝えがあります。これが品 川間答と呼ばれてその碑が山門の手 前に立っています。昔は境内に古松 が多く、慶安の頃訪れた家光が松の 寺と名付けたとも図会にはあります が、今は数本が残るのみです。挿絵 で本光寺周辺に描かれている大龍寺、 天龍寺、図会で「海竜寺」と誤記され ている「海蔵寺」と廻ります。海蔵 寺は品川宿にある時宗三箇寺のひと つで、俗に「投げ込み寺」と呼ばれ ています。罪人や、宿駅で働く諸国 から集まった身寄りのない人々が葬 られました。海蔵寺無縁塔群として、 品川区の指定史跡となっています。

熊野山常行三昧寺から諏訪神社

海蔵寺から第一京浜、京急を隔て て海側に行くと熊野山常行三昧寺が あります。「天台宗にして東叡山に属 す」とあり、嘉祥元年(848)慈覚大 師が常行三昧を修行した旧跡と図会 には書いていますが、大井村の辺り にあったものが、承応2年(1653)に 現在の場所に移ったとも伝えられて います。初回の時は、本堂前の桜が ほぼ満開でした。

常行寺から旧東海道、南品川宿の 通りに出ます。少し南に下ると長徳 寺があります。このお寺も時宗三箇 寺のひとつで、元は北品川にありま したが、東海寺の建立が決まったた めここに移されました。寄せ棟造り の本堂の左側には閻魔堂があり、「南 品川のお閻魔さま」として知られ、 『東都歳事記』にも記述があります。



▲挿絵 長谷川雪旦 品川寺

長徳寺の先は鳳凰山天妙国寺です。 このお寺も本光寺と同じく京師妙満 寺派の触頭でこちらは「江戸三箇寺 の随一なり」とあります。開創は弘 安8年(1285)と伝わり、天正18年 (1590)家康が入国の折、宿泊した ため徳川家との繋がりができました。 寛永11年(1634)に家光は五重塔や 書院、仁王門、総門などを新築、寄進 し、日延を中興開山として命じ、紫 衣を免しました。

妙国寺のすぐ南に妙国寺の鎮守社、 諏訪神社があります。「寄木明神と同 じ神にして洲崎明神と称せしを後世 誤り伝えて洲の明神と唱え、又、諏 訪明神に伝承す」と図会にはありま すが、妙国寺の開山天目が生地信州 から諏訪神社を勧請したという説も あり、由来ははっきりしません。拝

殿前の燈籠には龍が巻き付いていま

海照山品川寺から補陀落山海晏寺

諏訪神社から3分ほどで品川寺で す。入り口には銅製の大きな地蔵尊 が安置されています。江戸六地蔵尊 のひとつです。山門の手前には宝塔 型の宝篋印塔が亀の台座に鎮座し ていました。境内右手には品川区指 定文化財の大きなイチョウがありま す。根元には庚申塔が2基。ひとつ は自然石の表面に梵字や施主の人名 が刻まれた珍しいものです。延宝8 年(1680)に造立されたもので、総 高2mに及ぶ特異な庚申塔です。台 石の正面には三猿と、その左右に雌 雄の鶏が刻まれていますが、どうい う意味があるのでしょうか? もう 1基は駒形で、正面に庚申塔と刻ん だ寛政7年(1795)造立の文字塔で す。お坊さんが境内を掃き清めてい

> て、本堂が開いているのは このお寺だけでした。

品川寺の次は海雲寺です。 ここには千体荒神堂があり、 「品川の荒神さん」と呼ばれ、 火と水の神として、また台 所の神として信仰されてい ます。3月と11月の27、28 日に開かれる千体荒神祭は 今でも大賑わいとなるそう です。荒神堂内部の奉納扁 額、格天井の纏の絵柄が見 事です。

荒神堂を回り込むように 第一京浜に戻り、青物横丁駅前の歩 道橋を渡って少し行くと海晏寺です。 建長3年(1251)、網にかかった鮫 の腹から聖観音像が現れ、これを聞 いた執権北条時頼がこの地に伽藍の 建築を命じたのが始まりとあります。 江戸時代は紅葉の名所として知られ ていました。紅葉の名所であったで あろうその丘には岩倉具視、松平春 嶽、由利公正などのお墓があります。 しかし、見えるのは鳥居のみで固く 閉じられた扉は施錠され、入ること はできません。本堂に向かって左側 に能楽観世流、梅若宗家の墓地を発 見したのがせめてもの収穫でした。 【取材】歩いた人(文・写真とも):

広報部会・中村貞子

(えど友ホームページに地図と写真 レポートが掲載されています)

友の会 特別企画

「富岡製糸場の歴史と文化」 ―ユネスコ世界遺産登録を祝って―

講師 今井幹夫さん(富岡製糸場総合研究センター所長)

- ◆富岡製糸場は明治日本の産業の夜明けでもあり、社会にも色々な変化をもたらしました。その製糸場に関して長年にわたって調査、研究をされている第一人者であり、また世界遺産登録に導いた功労者でもある、富岡製糸場総合研究センター所長の今井幹夫さんから特別にご講演をいただけることになりました。スライドを中心に製糸場内の非公開部分も含めて、分かりやすくお話しくださるとのことですので、奮ってご参加ください!
- ◆講師略歴:いまい・みきお 群馬大学学芸学部卒、富岡市内の小学校校長などを務め、 1995年富岡市立美術博物館長、2009年より現職。富岡 製糸場誌、富岡市史編さん室長等を歴任。著書『富岡製 糸場と組産業遺産群』
- 開催日時: 8月1日(金)14時~15時30分
- 申込締切:7月18日(金)必着
- 会場:江戸東京博物館・1階ホール
- 定員:先着400人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:無料 会員、同伴者とも

古文書講座

◆第2期の開講並びに第3期の中止について

第2期は9月から下記日程で開講します。受講は自動継続ではありません。改めてお申し込みください。また申込はがきは1講座ごととして、申込の受付は7月末までです。第2期は入門編と中級編の開催曜日も従前に戻りますが、11月の開催日については各編とも変則日になります。また、11月18日から翌年の3月末まで館のリニューアル工事のため、古文書講座の第3期(1~3月)は中止となりますので予めご連絡いたします。

- ◆入門編
- 講師:田中潤さん(学習院大学非常勤講師)
- 開催日:9/3(水)、10/1(水)、11/14(金)
- ◆初級編
- 講師:安藤奈々さん(学習院大学大学院史学専攻)
- 開催日:9/17(水)、10/15(水)、11/16(日)
- ◆中級編
- 講師:吉成香澄さん(学習院大学大学院史学専攻)
- 開催日:9/20(土)、10/18(土)、11/15〈土)
- 時間:各講座とも

午前の講座は10時30分~12時30分 午後の講座は14時~16時

(注意)午前の講座か、午後の講座かの希望を明記

- 会場:各講座とも江戸博1階会議室
- 定員:各講座とも80人(会員のみ)
- 参加費:各講座とも全3回1,500円(初回一括払い)
- ◆26年度第1期の残日程

入門編7/19(土)、初級編7/16(水)、中級編7/2(水)

【企画担当責任者】宮 俊(事業部会)

友の会セミナ-

第 143 回「大変だった!将軍の大名庭園見物 ―収集家小澤圭次郎の功績―」

講師 吉河 功さん(日本庭園研究会会長)

- ◆日本庭園の研究、発掘・復元に長年携わってこられた経験から、庭園の歴史や「大名庭園にまつわる秘話」を紹介していただきます。昔のまま現存する庭園は少ないのが実状ですが、江戸時代には実に個性的な庭が多かったようです。特に、明治維新とともに、優れた庭園が失われていく変遷をみた桑名藩の小澤圭次郎(1842 − 1932)は教職を辞し、往時の造園資料の蒐集研究に励み、今では近代初の「庭園史研究家」としてその功績が評価されています。まずは大名庭園とは何かという基本から確認してみましょう。
- ◆講師略歴:よしかわ・いさお

昭和16年(1941)生まれ。芝浦工業大学建築科卒業。日本庭園・古建築研究専攻。作庭技法、中国庭園史研究。 1963年「日本庭園研究会」を創立、研究誌『庭研』創刊。2003年から、大妻女子大学非常勤講師を務めた他、日本各地、中国・イタリア等で講座や講演を行う。

- ·開催日時:7月27日(日)14時~15時30分
- ·申込締切:7月17日(木)必着
- ・会場:江戸東京博物館・1階ホール
- ・定員:200人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- ・参加費:会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】国定美津子(事業部会)

第 144 回「江戸・東京の稲荷信仰」

講師 加藤紫識さん(千代田区立日比谷図書文化館勤務)

- ◆江戸に多いもののひとつとして、稲荷(イナリ)が挙げられたことはよく知られています。江戸期の随筆や錦絵には、特定の御利益がある稲荷や、ある日突然流行り出した稲荷など、様々な稲荷信仰の姿が描かれてきました。そして現在でもなお、「おいなりさん」と呼ばれ、都市に住む人々にとっては身近な存在であるといえましょう。本講座では、江戸から現代へ続く都市の稲荷信仰の実態を民俗学の視点で解き明かしていきます。
- ◆講師略歴:かとう・しのぶ

博士(民俗学)。千代田区教育委員会 文化財調査指導員として千代田区立日比谷図書文化館(文化財事務室)に勤務。論文:「千代田区における稲荷社の祭祀集団」(2009「伝承文化研究」第8号 國學院大學伝承文化学会)、「都市における同業神信仰」(2010「史潮」第68号歴史学会)。担当報告書:『千代田の稲荷一区内稲荷社調査報告書一』(2008 千代田区教育委員会)など。

- 開催日時: 8月23日(土)14時~15時30分
- 申込締切:8月15日(金)必着
- 会場:江戸東京博物館・1階ホール
- 定員:200人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】宮 俊(事業部会)

見学会

「江戸博常設展を見る」

- ◆最近入会をされた皆さんを主な対象に、常設展示の見学会を年に一度ほど開催しております。今年度は、下記要領にて行います。ぜひ参加いただき、その楽しさを味わっていただければと思います。当日の案内者は、江戸博展示ボランティアガイドにお願いしています。見学の時間は、2時間を予定しています。
- 開催日:7月24日(木)13時45分集合
- 集合場所:江戸東京博物館・1階ホール前
- 申込締切:7月17日(木)必着
- 定員:40人 同伴者可(はがきに氏名連記)

なお、申込み多数の場合は新規入会者を優先します。

参加費:無料 (会員は会員証を忘れずに持参してください。同伴者は常設展観覧券を購入の上集合してください)。
 【企画担当責任者】下永博道(事業部会)

えど友研究発表会

第6回「えど友研究発表会」

- ◆今年も、会員の皆さんによる研究発表会を開催します。 発表者と演題は次のとおりです。
- ・ 廣瀬尚美さん「浮世絵に見る江戸の名所と年中行事 〜東錦絵 江戸自慢〜」
- 松原 良さん「江戸御府内八十八ヵ所について」
- 開催日:8月6日(水)13時~15時30分
- 申込締切:7月25日(金)必着
- 会場:江戸東京博物館・1階会議室
- 定員:100人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:会員・同伴者とも無料

【企画担当責任者】内山文伸(事業部会)

地域文化探訪 - 学習会

第6回(平成26年度第1回)豊島区立郷土資料館を訪ねる

- ◆池袋駅周辺は江戸時代池袋村と呼ばれ、広大な農村地帯でした。多数の池が散在し、窪地で袋状になっていたところから池袋の地名になったとも言われています。明治以降急速に開拓され交通網も広がり、戦後の焼け跡にはヤミ市も出現しました。そんな関連資料を展示しているのがこの郷土資料館です。学習会を通じて豊島区の歴史・文化を知るのがテーマです。
- 開催日:8月20日(水)9時30分~10時 受付
- 開催場所:豊島区立 郷土資料館

(西池袋2-37-4 勤労福祉会館7階)

- 学習:10時~12時 館の沿革・特徴等についての講義と 見学
- 交通アクセス: JR 山手線・地下鉄有楽町線・丸の内線・ 副都心線・西武池袋線・東武東上線 いずれも「池袋」駅 池袋駅から西口徒歩10分・メトロポリタン口徒歩8分
- 申込締切:8月7日(木)必着
- 定員:60人 (会員のみ)
- *定員を超えた場合は抽選、ご希望に添えないこともあります。
- 参加費:500円

【企画担当責任者】清水昌紘(事業部会)

会員優待のお知らせ

●2014年NHK大河ドラマ特別展

「軍師 官兵衛」

会 期:5月27日(火)~7月13日(日)

休館日:毎週月曜日

会 員:一般650円、65歳以上320円、大・専門生520円 同伴者:一般1,040円、65歳以上520円、大・専門生830円 *高校生は65歳以上と同じ。中学生以下は無料。

会期残り僅か

お見逃しなく

●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

次回予告

●「思い出のマーニー×種田陽平展」

会 期 7月27日(日)~9月15日(月·祝)

休館日:8月4日(月)、9月1日(月)

会 員:一般650円、65歳以上320円、大・専門生520円 同伴者:一般1,040円、65歳以上520円、大・専門生830円 *高校生、中学生、小学生は65歳以上と同じ。

●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

企画展のご案内

●「発掘された日本列島20周年記念 発掘された日本列島―日本発掘―」

会 期:7月26日(土)~9月15日(月·祝)

休館日:8月4日(月)、9月1日(月) 会場:常設展示室6階 特設会場

常設展示室5階 第2企画展示室

お申込方法

- *「えどはくカルチャー」など江戸博への申込とは違います。 普通はがきで宛先も「友の会事務局」と明記して下さい。 お間違いないよう、お願いします。
- ◆普通はがきに、①催事名(略名可)・開催日、②会員番号(必須)、③氏名(同伴者連記)を明記して下記の「友の会事務局」へ。
- ◆申込は、催事ごとに会員1人1通。
- ◆友の会へのご意見・ご要望があれば記入して下さい。
- ◆申込先:〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館**「友の会事務局」**
- *お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご 持参のうえ、受付で登録して下さい。

なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日 後一斉にお送りしますので、それまでお待ち下さい。

- *いずれも申込多数の場合は抽選となることがあります。
- *「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などはなるべく事務局員出勤の**火曜日か金曜日(10 時~12 時、13 時~17 時)**にお願いします。
- *「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をして からご参加下さい。

会報<えど友>第80号

平成 26 年 7 月 1 日発行(奇数月 1 日発行) 編集・制作: 江戸東京博物館友の会広報部会 発行人: 畠中 勇(会長) 編集長: 中村貞子

岡本 脩、佐藤李彦、福島信一、内匠屋京子、佐藤美代子、前田太門、 菊池真一、竹中祐見子、田端道宏、光田憲雄

発行: 江戸東京博物館友の会

〒130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 電話 03-3626-9910

12 江戸東京博物館友の会会報『えど友』 平成 26 年 7 月 第 80 号